

「東浦自然環境学習の森基本計画（案）」への意見募集結果について

No.	意見等の要旨	パブリック・コメントの意見等	町の考え方
1	個人の活動を推進する仕組みづくりについて	<p>「住民が里山の自然に触れ、楽しみながら人と自然の関係を学ぶ自然環境学習の森づくり」を継続させるためには、特定の保全団体の活動に頼っているのは、活動の幅に限界があり、保全団体の負荷も考慮すると、継続性にも不安があります。「楽しみながら」の活動が「頑張って」になりかねません。（もうすでに「頑張って」になりかけていると思います）</p> <p>里山環境の保全のためには、常に人によるインパクトを与え続ける必要があります。このためには、多様な考えを持つ、より多くの人に関わって、あらゆる方向から少しずつ環境保全の方向へ向かって活動し、利用、学習することが大切と考えます。係わる人が少なくなれば、生産性の無い無駄な地域と評価されかねません。「少しずつ多くの人」が大切です。</p> <p>特定の保全団体の活動に頼らずに、個人における、里山での活動を推進する仕組みづくりをお願いします。</p>	<p>里山環境の保全推進のためには、多様な考えを持つ多くの人に関わって保全活動や学習等を行うことが大切であると認識しています。</p> <p>現在、東浦自然環境学習の森での保全活動については、竹林部会、水辺部会、自然観察・生き物調査会などのほか、企業等の保全団体にもご参加いただき保全活動を行っているところです。</p> <p>保全活動の推進については、今後も多くの方々から意見を頂戴しながら、個人、団体問わず、ルールに則り、保全活動に参加いただけるよう取り組んでまいります。</p>
2	動植物の採取と継続的に採取を行うための保護について	<p>「住民が里山の自然に触れ、楽しみながら人と自然の関係を学ぶ自然環境学習の森づくり」を継続させるためには、一律に動植物の採取を禁止するのではなく、里山本来の姿である、採取等で人が営むことによる環境維持が大切です。</p> <p>現在、里山の維持管理のために、除伐作業がおこなわれていますが、これは、特定の活動団体に大きな負荷となっています。</p> <p>除伐による里山環境の維持ではなく、採取を行った結果、里山環境が維持される仕組みづくりが必要です。</p> <p>例えば、「竹による工作物のために竹を採取する」「薪を確保するために低木を切る」「仏花を作るためにヒサカキを採取する」「アクセサリー作成のために、つる草やどんぐりを採取する」といった行為を推奨すべきです。</p> <p>現在の規則では、子供の昆虫採集であっても昆虫の持ち出しは禁止されています。こんなつまらない昆虫採集はありません。</p> <p>楽しみながら人と生き物の共生を図るためには、採取と採取を継続的に行うための採取物の保護を行うべきと考えます。</p>	<p>東浦自然環境学習の森では、希少な動植物の保護や乱獲を防止することを目的として、動植物の採取に制限を設けています。</p> <p>なお、町や保全活動団体では、昆虫や植物の特徴や生態系を楽しみながら学ぶことができる自然観察会等の事業を実施しているところですが、ご提案をいただきました内容につきましては、今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>

3	<p>単発の活動について</p>	<p>自然環境学習の森において、人と生き物の共生を図り、人が利用することで環境維持が大切と考えます。 そのためには、単発の活動を奨励すべきと考えます。 例えば「陸上クロスカントリーの練習会」「樹木や自然物のみで作るシェルターの作成実験」「災害時に役立つタープワークの研究」「野点茶会」「自然に溶け込んだ野営」「カダヤン絶やし大作戦」「野草を食べよう」などいろいろな活動で、人と生き物の共生が図れると思います。 「年間スケジュールに基づく計画的な・・・」などと足かせをはめては、なかなか多くの人に関わることができず、放置林が増えてしまいます。そして放置林が増えないよう「頑張る」人が必要になってしまいます。 楽しんで人が活動することで、里山の維持、活用を進めるべきです。</p>	<p>東浦自然環境学習の森における竹林の整備などの保全活動については、計画的、継続的な活動を実施することにより、山地里山環境の再生と生態系の保全等に貢献できるものと考えています。 今回ご提案をいただきました「単発の活動」につきまては、今後の保全活動の推進に際し、参考とさせていただきます。</p>
4	<p>知識の習得について</p>	<p>自然環境学習の森を認知し、より多くの人に活動してもらうために、知識の習得が大切だと考えます。 そこで、ボーイスカウトの教育カリキュラムが利用できるのではないのでしょうか。ボーイスカウトは、責任感、信頼性、指導制、協調性などを育み、社会の一員として役割を果たせる青少年の育成を目指していますが、野外を主たる教場としており、「森林生活法」（野営、ビバーク、結索、開拓、火おこし、きこり、ハイキング、地図とコンパス、天文など自然の中で生きるための術）を習得し、「自然からの学び」（自然観察を通して自然に触れさまざまなものへの感謝の念を養う）がカリキュラムとして組み込まれています。 中学生相当の子供たち向けのカリキュラムが、これから知識を習得するには、ちょうどいい内容で、参考になると思います。 また、ボーイスカウト運動の創始者であるロバート・ベーデン-パウエル著の「スカウティング・フォア・ボーイズ」も参考になると思います、ぜひ、ご一読ください。</p>	<p>東浦自然環境学習の森では、自然観察会、環境保全リーダー育成講座、出前講座など、自然環境に関する知識習得に必要な講座等を子供たちなどを対象に実施しているところであり、引き続きこれらの事業の継続に努めてまいります。 なお、今回いただきましたご提案につきまして、今後の環境学習等の事業を展開する際の参考とさせていただきます。</p>